

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立新堀小学校

全国学力・学習状況調査 A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	63.0%	63.0%
令和 7 年度の目標	60.0%	60.0%
令和 6 年度の結果	46.6%	32.6%
令和 5 年度の結果	65.3%	65.3%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果 A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	32.8%	37.2%
第 5 学年	17.0%	27.9%
第 4 学年	36.0%	37.3%
第 3 学年	39.9%	36.2%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・校内研究の充実「主体的・対話的な学び」の学習活動の質的向上を図り、学年や分科会で教材研究を行い、実践する。 ・OJTの機会を保障し、実践の伝達やお互いに授業を見合う研修を行う。	・年間を通したよむYOMU ワークシートを実施・活用 ・算数学力定着度調査の実施とカルテの活用 ・東京ベーシックドリル、デジタルドリルを活用した反復学習を実施する。 ・「新堀スタンダード」で学習の基本的な学習の流れ、発言の仕方や聞き方等の全学年統一。	・年 3 回の「江戸川っ子study week!」に取り組み、保護者にも児童の家庭学習へ目を向けさせる。 ・一人 1 台の学習者用端末を活用したデジタルドリルの積極的な活用を行う。 ・「えどタブルール」等の周知・徹底をする。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・反復学習で、児童自身が成長を実感できるようにする。 ・複数教員の関与による多面的な児童理解の充実を図る。 ・家庭との共通理解に努め、必要に応じて校内で共通理解の場を設け組織的に対応する。	・ミライシードや個別プリントで苦手分野の復習を行う。 ・放課後補習教室との積極的な連携を行い、基礎的な学力を身に付けさせる。 ・算数 AB 層のにさらなる学力向上に向け「江戸川 マスターコース」を活用する。	・児童の実態に応じて課題の分量や 内容などを 選択できるよう配慮する。 ・一人 1 台端末、 デジタルドリルの活用の際、難易度 ・分量など個々に合ったコースを選択させる。 ・長期休業における家庭学習の計画作りの指導・放課後補習教室への参加を呼び掛ける。
成果指標	・全国学力調査の児童質問紙「国語・算数の授業の内容はよくわかりますか」については肯定的な回答がそれぞれ60%以上である。	・学力調査テストの平均正答率が60%以上。	・全国学力調査の児童質問紙「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」については30分～60分以上の回答が70%以上である。